

3. 暮らしやすさを追求する

3-1) 豊かな教育環境の充実

施策1 魅力ある小中学校の再生

取組項目	主な取組内容				
①小学校統合も視野に入れた教育環境整備	原子力災害の影響も含めた少子化傾向を踏まえ、小学校は統合も視野に入れつつ、より良い小中学校の教育環境のあり方を検討。				
②より魅力ある学習環境の整備	子どもたちの帰町をめざし、全天候型運動施設、栄養バランスに配慮した給食、子どもの特性に合わせた学習環境など、魅力ある学習環境の整備方策を検討。				
	H24夏	H26春	H27春		
	▼	▼	▼		
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期	
① 小学校統合も視野に入れた教育環境整備					
② より魅力ある学習環境の整備					

施策2 高校などによる高等教育の充実

取組項目	主な取組内容				
①アカデミー福島再生による国際人教育の推進	JFA アカデミー福島の再生を関係機関に要請。双葉郡の子どもたちに対する国際人教育を推進。				
②広域的連携による高等教育機関の誘致	双葉郡の子どもたちのための県立高校の新設に向けて、郡内が連携し、国や県等に働きかけ。中高一貫校化も検討。				
	H24夏	H26春	H27春		
	▼	▼	▼		
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期	
① アカデミー福島再生による国際人教育の推進					
② 広域的連携による高等教育機関の誘致					

3-2) 福祉施策と子育て環境の充実

施策1 子育て支援等の環境整備

取組項目	主な取組内容				
①次世代育成支援行動計画の見直し	災害の影響を考慮し、復興計画などを踏まえて現状に対応した見直し。				
②子どもが思いっきり遊べる公園、遊び場の整備	NPO、ボランティア等の協力を得て、遊びの場・機会を提供。公園づくり等により、子どもたちが安心してのびのびと遊ぶことができる地域環境の整備を推進。				

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 次世代育成支援行動計画の見直し				
② 子どもが思いっきり遊べる公園、遊び場の整備 避難先における遊び場の確保 町内の公園等の整備				

施策2 高齢者・障がい者の健康管理・ケア体制づくり・生きがいづくり

取組項目	主な取組内容
①障がい福祉計画等の見直し	障がい者福祉計画、高齢福祉計画、地域福祉計画等を、この災害の影響を踏まえて見直し。
②生きがいづくりと一体化した健康管理・ケア施設の整備	介護・障がい福祉施設の現況・意向を把握し、避難解除後の再開支援を検討。新規参入事業者の誘致・支援方策も検討。
③福祉・介護サービスの人材確保	人材確保とともに、高齢者であっても可能な範囲で支援側となり役割を担う仕組みを構築。
④子ども施設と高齢者施設との併設	学校・こども園が再開するまでの間は、これらの施設を高齢者など町民のために活用。
⑤誰もが暮らしやすいバリアフリーなまちづくり	道路や公共施設のバリアフリー化や、人権を尊重した「心のバリアフリー」施策を引き続き推進。
⑥シルバー人材センターの再開・活用	シルバー人材センターを再開・活用し、復旧・復興に関わる事業の一環を元気な高齢者に委ね、ふるさと再生を願う高齢者の生きがいに。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 障がい福祉計画等の見直し				
② 生きがいづくりと一体化した健康管理・ケア施設の整備				
③ 福祉・介護サービスの人材確保				
④ 子ども施設と高齢者施設との併設				
⑤ 誰もが暮らしやすいバリアフリーなまちづくり				
⑥ シルバー人材センターの再開・活用				

3-3) 便利で心豊かに暮らせる生活環境の整備

施策1 新たな商業ゾーンづくり

取組項目	主な取組内容
①共同型店舗の整備、商業ゾーンの発展	商店、飲食店、住民サービス機能などの早期・効率的な営業再開のため、町と商工会や関係事業者が連携し、共同店舗の整備を推進。

	H24夏 ▼	H26春 ▼	H27春 ▼	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 共同型店舗の整備、商業ゾーンの発展				

施策2 予防医療、介護福祉も含めた総合的・先進的地域医療の確立

取組項目	主な取組内容
①一次医療の再生、二次医療の充実強化	既存の医療機関に対し、帰町に合わせた診療再開を要請・支援。県・郡内他町村と連携し、救急や二次医療機関の誘致を目指す。
②放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）の誘致	県「放射線治療研究拠点構想」の一環で、総合医療施設の整備を位置づけ、誘致を目指す。
③放射線・被ばく医療研究者等の招へい	放射線医療・被ばく医療の研究人材を広く招へい、町民と共に暮らしていくことを町として支援。

	H24夏 ▼	H26春 ▼	H27春 ▼	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 一次医療の再生、二次医療の充実強化 地元医療機関の再開要請・支援 一次・二次医療整備計画の検討 二次医療の確保要請				
② 放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）の誘致				
③ 放射線・被ばく医療研究者等の招へい				

4. これまで・現在とは違う新しさを目指す

4-1) 檜葉新生プロジェクトの推進体制の整備 (p.5 ~ p.8 参照)

新しい檜葉町を目指す各種プロジェクトを推進するため、町役場はもちろん、国・県などの関係機関、町民などが連携する復興推進体制を構築します。

4-2) 風評被害の払拭

施策1 草の根情報発信

取組項目	主な取組内容				
①滞在型・体験型ボランティアの受け入れ	滞在型・体験型ボランティアの積極的受け入れ。檜葉応援団を増やし、風評を払拭。				
	H24夏 ▼	H26春 ▼	H27春 ▼		
① 滞在型・体験型ボランティアの受け入れ	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期	

施策2 国に対する風評抑止対策の要請

取組項目	主な取組内容				
①風評被害払拭に向けた国等への取組要請	各基準値を定めている国に、根拠等のわかりやすい説明を要望。また、製品取引等において風評被害を抑止するため、国の一層の取組を要望。				
	H24夏 ▼	H26春 ▼	H27春 ▼		
① 風評被害払拭に向けた国等への取組要請	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期	

4-3) 新しい産業による地域経済の発展

施策1 復興に伴う新規流入人口の受け入れ

取組項目	主な取組内容				
①宿泊施設の復旧・確保	サイクリングターミナル、町内旅館・民宿等の再開や宿泊ビジネスの促進により宿泊施設を確保。				
②新たな居住者のための住環境整備	新産業の従事者・研究者や郡内他町村からの長期避難者の受け皿となる住環境を整備。				

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 宿泊施設の復旧・確保				
② 新たな居住者のための住環境整備				

施策2 新産業の創造・誘致

取組項目	主な取組内容
① 関連技術活用による起業、ベンチャー企業支援	原子力関連技術、ロボット、遠隔操作技術等の習得・応用による起業化やベンチャー企業育成を支援。相談・設備共同利用等の推進に向けた検討。
② 原子力防災・廃炉関連機関の誘致	廃炉の技術開発・推進を担う公的研究機関を誘致。同時に、原子力防災に関わる研究・実践も推進。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 関連技術活用による起業、ベンチャー企業支援				
② 原子力防災・廃炉関連機関の誘致				

施策3 農林水産業の再生と新たな展開

取組項目	主な取組内容
① 農地の復旧と保全、農業の再生	ほ場整備された農地や耕作放棄地等について、農業者の意向を尊重しながら、除染の実施、農地の集約化や作物転換等、農業再開を図る。また、農作物の測定監視体制を整備し、信頼回復に努める。
② 植物工場の導入促進	町の農業再生のため植物工場を導入、将来の新しい農業形態として積極的に推進。
③ 放射線安全利用、低レベル放射線の影響研究	放射線と農作物に関する幅広い試験研究・実証を行う調査研究機関を誘致。
④ 鮭のふ化や鮎の飼育の再生	木戸川等川床の汚染・除染進ちょく状況を見つめ、鮭や鮎への放射性物質の影響を調査した上で、施設を再整備。
⑤ 生産基盤再構築のための家畜衛生維持向上	野生化した家畜等の捕獲・措置、酪農家などの意向把握を行い、畜産業の再生に取り組む。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 農地の復旧と保全、農業の再生 汚染状況の調査・除染 農地復旧 農業の再生				
② 植物工場の導入促進				
③ 放射線安全利用、低レベル放射線の影響研究				
④ 鮭の心化や鮎の飼育の再生 水産業再生に向けたモニタリング 鮭の心化事業の再開検討				
⑤ 生産基盤再構築のための家畜衛生維持向上 畜産業の再生 飼料作物の試験栽培				

施策4 再生可能エネルギーへの取り組み

取組項目	主な取組内容
① 農地を利用した太陽光発電事業の導入促進	既存遊休農地、耕作放棄地などの集約化・規制緩和による農地転用を図り、太陽光発電事業の導入を促進。
② 風力発電、小水力発電、バイオマス発電などの導入促進	水資源、木質資源を活用し、エネルギーの地産地消を目指し、技術開発・導入を検討。
③ 工業団地への再生可能エネルギー導入促進	太陽光発電や風力発電を団地内に設置し、エコ工業団地としてPR、かつ電力安定確保の特徴をアピール。
④ 農業再生につながるバイオマス燃料製造	菜の花、綿花、ひまわり等による農業の再開・活性化と、これらを活用したバイオマス燃料事業の可能性を検討。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 農地を利用した太陽光発電事業の導入促進				
② 風力発電、小水力発電、バイオマス発電などの導入促進				
③ 工業団地への再生可能エネルギー導入促進				
④ 農業再生につながるバイオマス燃料製造				

4-4) 町外との新たな連携・交流

施策1 連携・交流促進の仕組み・機会づくり

取組項目	主な取組内容
① 楢葉応援団の結成	ボランティアや寄付者等にお礼状などで感謝の気持ちを伝える機会を通じて町のファンを増やし「楢葉応援団」を結成。
② 交流人口の拡大	観光・物産等の情報発信、体験旅行・滞在型交流活動などにより町の安全性をアピール。また、県等と連携し、町民を巻き込んだ交流人口の拡大を図る。
③ まちづくりの取り組み「ふくしま発」への参画	県開催のまちづくり全国大会「ふくしま発」に積極的に参加、復興をアピールし元気を発信。
④ 全国やまゆりサミットの開催	やまゆりの会復活、やまゆり群生地再生により、全国やまゆりサミットを開催。
⑤ 全国へ苗の支援なども呼び掛ける「花いっぱい運動」	全国に苗の育成・提供支援なども呼び掛け、花いっぱい運動を展開。この一環として、町内各所で桜のトンネルづくりなどにも取り組む。
⑥ 復興祭の開催と復興をアピールするスポーツの話題づくり	Jヴィレッジの再開に合わせ復興祭を開催。日本クラブユース選手権などのイベントの開催誘致やサッカー日本代表、Jリーグやなでしこリーグの試合を誘致。
⑦ 教育旅行の誘致による国内外学生との交流促進	県「教育旅行誘致促進事業」と連携し、教育旅行の体験メニューを充実させ、若者に魅力をアピール。国内外学生との交流を図り国際感覚を持つ若者を育成。

H24夏 H26春 H27春

	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 楢葉応援団の結成				
② 交流人口の拡大				
③ まちづくりの取り組み「ふくしま発」への参画				
④ 全国やまゆりサミットの開催				
⑤ 全国へ苗の支援なども呼び掛ける「花いっぱい運動」				
⑥ 復興祭の開催と復興をアピールするスポーツの話題づくり				
⑦ 教育旅行の誘致による国内外学生との交流促進				

施策2 観光産業の復活

取組項目	主な取組内容
① 観光施設等の再生・活性化	木戸ダム・木戸川、海水浴場、天神岬など、自慢の観光資源復旧と、時代にマッチした新たな観光産業への取組。
② 紛ツアー（仮称）の推進	被災地の現状を見て災害について学ぶとともに、被災地の住民と交流し、さらには被災地の特産物などを購入するスタディツアなどを実施。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 観光施設等の再生・活性化 観光施設の復旧				
② 紛ツアー（仮称）の推進				

4-5) 「ふるさと柏葉」づくり

施策1 スポーツのまち柏葉の再生と振興

取組項目	主な取組内容
① Jヴィレッジの復興	Jヴィレッジの復興を関係機関に強く要望、実現。
② スポーツの促進	町民の健康とコミュニティ維持のため、スポーツに取り組む機会を確保。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① Jヴィレッジの復興				
② スポーツの促進				

施策2 ふるさと柏葉の景観づくり

取組項目	主な取組内容
①天神岬公園「津波防災対策ビュー ポイント」整備	緩傾斜堤・二線堤整備、浸水エリアへの記念植樹などによる津波対策を天神岬公園から一望できる展望エリアの設置。
②桜のトンネルづくり	花いっぱい運動の一環として天神岬に通じる道をはじめ町内各所で桜のトンネルを整備。
③木戸ダム・木戸川流域の再生	国によるモニタリング、除染を求めつつ、木戸ダム・木戸川渓谷、鮎や鮎が泳ぐ木戸川の再生。
④町民農園の整備	農地を活用した「町民農園」整備により、町民、町外からの来訪者に土とふれあう機会を提供。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 天神岬公園「津波防災対策ビュー ポイント」整備				
② 桜のトンネルづくり				
③ 木戸ダム・木戸川流域の再生				
④ 町民農園の整備				

施策3 文化財の保全等

取組項目	主な取組内容
①文化財の復旧支援	被災文化財の災害復旧を支援。
②埋蔵文化財等の調査	復旧・復興の公共工事と調整し、遺跡等の文化財調査に取り組む。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 文化財の復旧支援				
② 埋蔵文化財等の調査				

施策4 町のイベント、祭りの再生

取組項目	主な取組内容
①町の各種イベントの復活・創設	風物詩「あるこう会」など、各種イベントの復活・創設。
②追悼行事の開催	避難などによる死者の追悼・慰靈行事を開催。
③伝統文化の継承	地域の歴史・文化を学ぶ取り組み、後継者の育成や伝統文化・民族行事等の保存継承活動を支援。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 町の各種イベントの復活・創設				
② 追悼行事の開催				
③ 伝統文化の継承				

5. さらなる安全・防災を目指す

5-1) 災害に強い人づくり・仕組みづくり

施策1 防災に関する各種計画の見直し

取組項目	主な取組内容
①地域防災計画（自然災害・原子力防災対策）の見直し	この災害の対応実態等の調査を踏まえ、地域防災計画を策定、市民向けパンフレット等で周知。
②津波避難計画の見直し	浸水痕跡調査を踏まえ、津波避難計画、防災マップの見直し、津波防災表示のあり方を検討。
③広域避難計画の策定、協定等の締結	今回の教訓を活かし、広域避難計画を作成。締結済の協定の修正、新協定の締結等を実施。
④広域避難に備えた重要情報資産の確保対策	戸籍、住民登録、その他重要な情報資産につき、安全なバックアップ方策を検討・実施。
⑤災害時要援護者避難計画の見直し	自主防災組織や福祉関係等の事業者・NPO団体等と連携し、災害時要援護者避難計画の見直し、個別計画の策定推進。
⑥物資の備蓄・調達計画の見直し	広域的対応の観点も含め、効果的な備蓄・調達の仕組みを計画。
⑦山間部における林地崩壊時の避難計画の策定	土砂崩落発生時に孤立する危険性が高い集落における、情報通信の確保、水・食糧・燃料等の備蓄、簡易ヘリポートの整備などを検討。

	H24夏 ▼	H26春 ▼	H27春 ▼	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 地域防災計画（自然災害・原子力防災対策）の見直し				
② 津波避難計画の見直し				
③ 広域避難計画の策定、協定等の締結				
④ 広域避難に備えた重要情報資産の確保対策				
⑤ 災害時要援護者避難計画の見直し				
⑥ 物資の備蓄・調達計画の見直し				
⑦ 山間部における林地崩壊時の避難計画の策定				

施策2 災害に強い人づくり

取組項目	主な取組内容
①防災リーダー育成、自主防災組織の再生・活性化	今回の災害の対応・課題の情報収集・整理。防災関係の調査・研究機関などの協力を得て防災リーダー育成、自主防災組織の再生・活性化。
②消防団の再構築	帰町時の消防団活動再開促進、消防団体制の再構築。事業者等の協力を得た機能別消防団も検討。
③実効性のある防災訓練の実施	地震・津波などの自然災害、原子力災害などを想定した防災訓練による、まち全体としての災害対応能力の向上。



施策3 緊急情報伝達・広報体制の充実

取組項目	主な取組内容
①緊急情報伝達の仕組みの再構築	町、県の防災行政無線の機能を復旧。非常通信伝達計画の見直しを実施。タブレット端末活用による緊急時情報伝達手段の確保。
②町独自の観測システム、観測体制等の強化	放射線、気象観測データなどを集約した町独自の観測システム・観測体制等を強化。



5-2) 災害に強いまちづくり

施策1 避難路・防災拠点等の体系的整備

取組項目	主な取組内容
①広域的避難ルートの体系的な整備	常磐道へ接続する出入口の確保、浜街道の延伸、東西交通の確保などによる避難ルートの確保。
②津波避難ルートの指定・整備	津波危険のある地域ごとに津波避難ルートを検討、必要な整備等を実施。
③原子力災害に備えた防災拠点の整備	町北部の「原子力防災ゾーン」に人員・資機材・車両等の集結スペースを確保。Jヴィレッジ周辺エリアに広域避難時の中継、医療・救護機能を備える防災拠点を整備。
④津波避難施設の整備	緊急避難に利用可能な築山の設置、災害危険区域指定地域への津波避難ビル誘導。

H24夏 H26春 H27春

	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 広域的避難ルートの体系的な整備				
② 津波避難ルートの指定・整備				
③ 原子力災害に備えた防災拠点の整備				
④ 津波避難施設の整備				

施策2 津波被災地区の再生・津波に強い地区づくり

取組項目	主な取組内容
①津波防災地域づくり総合推進計画の作成	津波防災地域づくりを総合的に推進する計画を策定、推進計画区域の設定、海岸保全施設の整備、市街地の整備改善の事業等の事業推進を図る。
②堤防の復旧、緩傾斜堤の導入	高さ8.7mの防潮堤を整備する。南地区浄化センター以北は緩傾斜堤として整備し、河川の護岸についても必要なかさ上げ等を県に要請。
③県道及びアクセス町道の復旧・整備	浜街道は、津波に対する二線堤とした海岸防災林、緩傾斜堤と一体的整備を県に要請。浜街道へ接続する町道を整備。
④海岸防災林の整備	県の想定を超える津波に備え、緩傾斜堤・海岸防災林を一体的に整備し、「減災」に取り組む。
⑤津波被災地区的地区別再生計画の策定・実施	津波被災地区的地区別意見交換などを通じ、コミュニティ維持・再生等に配慮した地区再生に取り組む。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 津波防災地域づくり総合推進計画の作成				
② 堤防の復旧、緩傾斜堤の導入				
③ 県道及びアクセス町道の復旧・整備				
④ 海岸防災林の整備				
⑤ 津波被災地区の地区別再生計画の策定・実施				

施策3 災害から町を守るための森林整備

取組項目	主な取組内容
① 水源涵養、土砂災害防止等も踏まえた森林整備	徹底した除染の難しい森林における放射線物質を含む土砂等の流出・風倒木を抑止するため、間伐や搬出など森林を守る取り組みへの支援を国等に要望。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 水源涵養、土砂災害防止等も踏まえた森林整備				

5-3) 災害教訓の伝承・発信

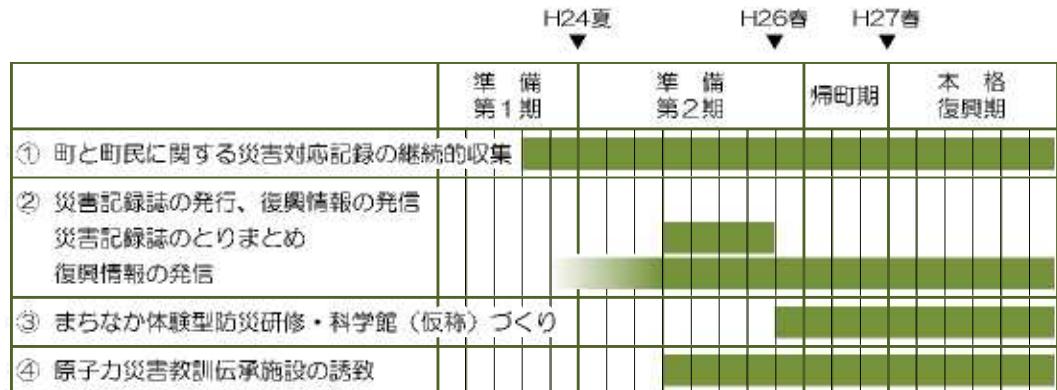
施策1 災害の記憶・教訓の見える化

取組項目	主な取組内容
①津波浸水エリア辺縁への記念植樹	津波到達地点を後世に伝えるため、津波浸水エリア辺縁に記念植樹。町民による維持管理の仕組みづくり。
②津波高・浸水高のまちなみ表示	津波の高さを実感するため、目に付きやすい津波高・浸水高表示の方法、設置場所を検討。
③避難路となった町道「松ノ口・大坂線」の教訓伝承	避難で重要な役割を果たした「松ノ口・大坂線」の教訓の伝え方（道路の多重化の重要性）を検討。

	H24夏	H26春	H27春	
	準備 第1期	準備 第2期	帰町期	本格 復興期
① 津波浸水エリア辺縁への記念植樹				
② 津波高・浸水高のまちなみ表示				
③ 避難路となった町道「松ノ口・大坂線」の教訓伝承				

施策2 災害・復興記録のとりまとめ、伝承

取組項目	主な取組内容
①町と町民に関する災害対応記録の継続的収集	職員、町民等からの聞き取り調査など、町だからこそできる情報収集・記録と提供。
②災害記録誌の発行、復興情報の発信	原子力防災対策検討用の資料となる災害記録誌のとりまとめ。各種教材・ホームページを通じた記録の発信。
③まちなか体験型防災研修・科学館（仮称）づくり	さまざまな災害痕跡、公共施設を活用し、町民や事業者の協力を得て、「まちなか体験型防災研修・科学館（仮称）」の運営を検討。資料館を活用し、被災体験と教訓を将来に伝える貴重な資料を収集・蓄積。
④原子力災害教訓伝承施設の誘致	原子力災害教訓伝承施設の設置を国・県に働きかけ、双葉郡内の広域連携の下、浜通り地方へ誘致。

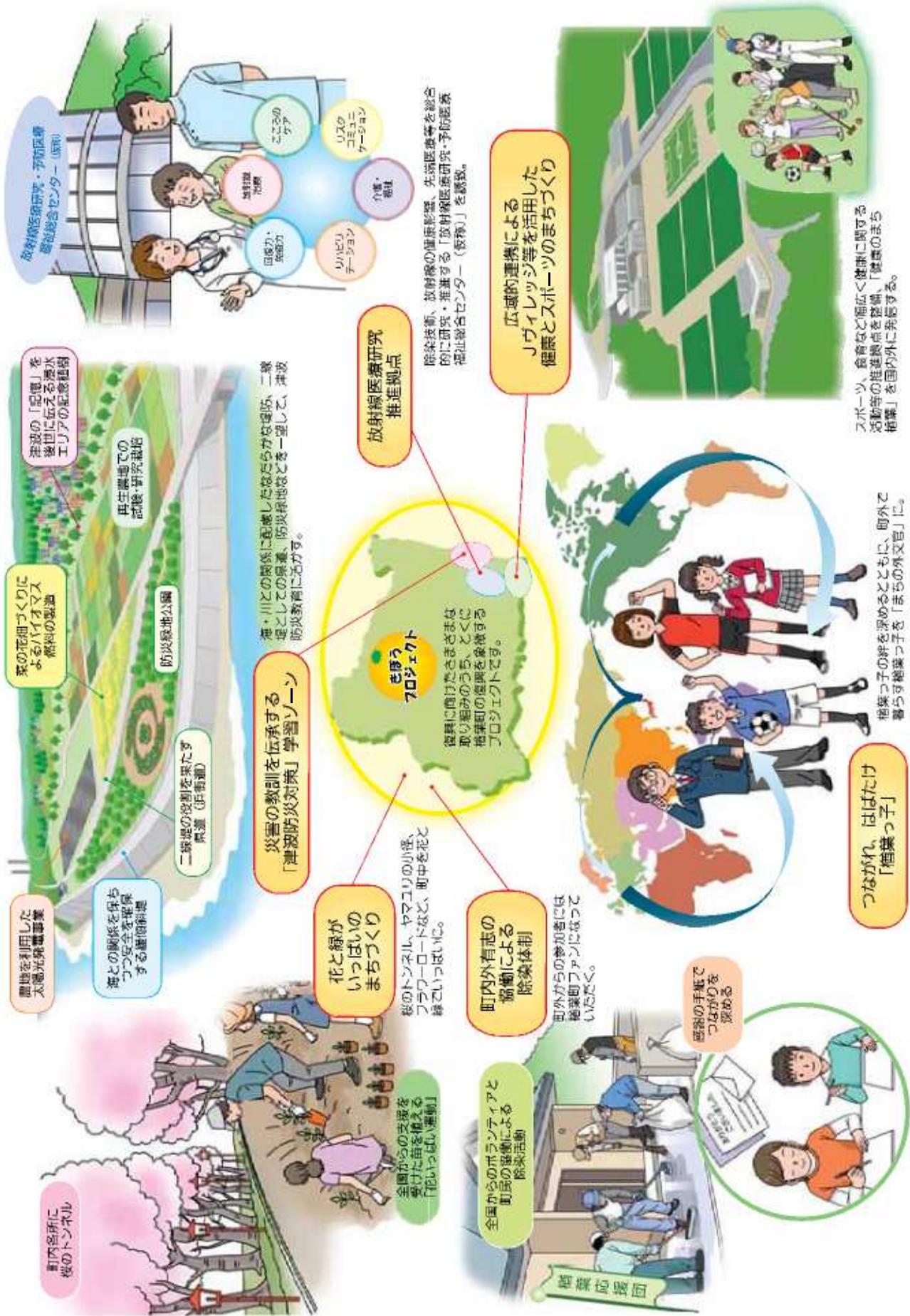


きぼうプロジェクト



復興に向けたさまざまな取り組みのうち、とくに橋葉町の復興を象徴するものを「きぼうプロジェクト」と位置づけました。みんなで夢と希望をもって復興へ取り組んでいくためのシンボルとします。

プロジェクト	概要	関連施策（取組項目）
災害の教訓を伝承する 「津波防災対策」学習ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・海・川との関係に配慮した堤防（緩傾斜堤）、二線堤としての県道、防災林、記念公園などの津波防災対策を推進し、これらを上から一望できる天神岬を観光や津波防災教育などに活かす。 ・津波浸水範囲の外縁に植樹を行うことで、今回の津波の大きさを伝えることもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防の復旧、緩傾斜堤の導入【5-2)(2)②】 ・県道及びアクセス道路の復旧・整備【5-2)(2)③】 ・海岸防災林の整備【5-2)(2)④】 ・天神岬公園「津波防災対策ビュー・ポイント」整備【4-5)(2)①】 ・農地の復旧と保全、農業の再生【4-3)(3)①】 ・農地を利用した太陽光発電事業の導入促進【4-3)(4)①】 ・農業再生につながるバイオマス燃料製造【4-3)(4)④】
花と緑がいっぱいのまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・桜のトンネル、ヤマユリの小径、フラワーロードなど、町中を花と緑でいっぱいにする。 ・花、苗木については、全国に協力を呼び掛けると同時に、避難生活を送る町民にも栽培を依頼して生きがいづくりの一環とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜のトンネルづくり【4-5)(2)②】 ・全国へ苗の支援などを呼び掛ける「花いっぱい運動」【4-4)(1)⑤】 ・全国やまゆりサミットの開催【4-4)(1)④】 ・避難生活の健康維持と生きがいづくり【1-1)(2)②】 ・農業再生につながるバイオマス燃料製造【4-3)(4)④】
町内外有志の協働による除染体制	<ul style="list-style-type: none"> ・除染技術の講習会をセットにした、町民や町外の有志によるボランティア除染コースを設定、多くの協力者を募る。 ・町外からの参加者に対しては、各地からのツアーなどの形で廉価な交通手段や宿泊施設の提供、準町民認定・感謝のハガキ送付などを通じて、橋葉応援団になっていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除染ボランティアの募集・受け入れ【2-1)(3)①】 ・除染に必要な作業用具等の配備【2-1)(3)②】 ・放射線関連の資格創設・町民の取得促進【2-5)(3)②】 ・滞在型・体験型ボランティアの受け入れ【4-2)(1)①】 ・橋葉応援団の結成【4-4)(1)①】
つながれ、はばたけ「橋葉っ子」	<ul style="list-style-type: none"> ・避難している子どもたちに、これまでの友だちと集う機会をつくり、橋葉の子どもたち（橋葉っ子）の絆を深める。 ・町の外で暮らす橋葉っ子を「まちの外交官」と位置づけ、新しい友だちづくりなどを通じて、橋葉を知り橋葉を愛する人々の輪を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生等の交流事業【1-5)(2)①】 ・新たな就学支援【1-5)(1)②】 ・より魅力ある学習環境の整備【3-1)(1)②】 ・アカデミー福島再生による国際人教育の推進【3-1)(2)①】 ・教育旅行の誘致による国内外学生との交流促進【4-4)(1)⑦】
広域連携によるJヴィレッジ等を活用した健康とスポーツのまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・Jヴィレッジを復興し、町総合グランドなども活用しつつ、近隣市町村と連携を図りながら、スポーツ、食育など幅広く健康に関する研究・教育・活動等を推進する拠点機関として整備する。 ・その活動を通じて、「健康のまち・橋葉」を国内外に発信し、多くの国・地域などと交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jヴィレッジの復興【4-5)(1)①】 ・スポーツの促進【4-5)(1)②】 ・復興祭の開催と復興をアピールするスポーツの話題づくり【4-4)(1)⑥】 ・健康づくり事業の推進【2-5)(1)⑤】 ・健康づくりに関する人材の育成・確保【2-5)(1)⑦】
放射線医療研究推進拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線の測定技術や除染技術、健康影響、先端医療等について総合的に研究・推進し、町民・県民・関係者の健康管理に役立てるとともに最先端医療を受けられる機関として「放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）」を誘致する。 ・このセンターでは、放射線に関するリスクコミュニケーションや心のケアなども行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）の誘致【3-3)(2)②】 ・放射線・被ばく医療研究者等の招へい【3-3)(2)③】 ・放射線安全利用、低レベル放射線の影響研究【4-3)(3)③】 ・専門家による放射線教育、町民の知識・理解向上【2-5)(3)①】



資料

平成25年5月11日

柏葉町長 松本 幸英 様

柏葉町復興推進委員会
委員長 近藤 邦彦

柏葉町復興計画〈第二次〉(案)について(報告)

平成24年9月6日付け柏葉町訓令第21号をもって設置された本委員会において、「柏葉町復興計画〈第二次〉(案)」について多くの議論を重ねた結果、委員会としての結論を得たため、別添のとおり報告いたします。

復興計画〈第一次〉策定後、平成24年8月10日には警戒区域の見直しがなされ「避難指示解除準備区域」に再編されたことで、いよいよ帰還に向けて、具体的な取り組みを本格的に実施することが求められています。この復興計画〈第二次〉(案)は、そのような状況を受けて、復興計画〈第一次〉の内容を現状に即して見直すとともに、これから柏葉町が目指すまちの姿をより具体的に示すものとしました。

特に大きな修正のポイントとしては、「時期区分の再整理」、町として復興を進めていく上で重要な「土地利用」及び「復興の推進体制」があげられます。今後、町として、町民、その他多くの関係者と協力して、個別の施策・取り組みを具体的に推進していかれることを期待しております。

なお、復興計画〈第二次〉(案)の策定に当たっては、復興推進委員会による活発な議論と、「放射線医療研究・予防医療福祉総合センター(仮称)プロジェクト」「まちづくり会社「ならは復興会社(仮称)」プロジェクト」「スマートコミュニティとコンパクトなまちづくりプロジェクト」の3つの中核プロジェクトによる精力的な検討がなされ、その結果が盛り込まれていることを申し添えます。

檜葉町復興推進委員会委員名簿

区分	氏名	備考	
学識経験者	松本 哲男	東京都市大学工学部教授	
学識経験者	吉川 肇子	慶應義塾大学商学部教授	
学識経験者	高木 竜輔	いわき明星大学人文学部准教授	
学識経験者	澤田 雅浩	長岡造形大学造形学部准教授	
学識経験者	永松 伸吾	関西大学社会安全学部准教授	
学識経験者	佐藤 彰彦	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授	
学識経験者	近藤 邦彦	復興推進委員会委員長 地域創造研究所 代表	
行政区	橋本 盛一	行政区長会長	
行政区	山本 満 大和田 正博	H25.3.31まで H25.4.1から	波倉行政区長
行政区	関本 正一	前原行政区長	
公共的団体	小澤 公道	檜葉町農業委員会会長	
行政機関	渡邊 司	教育委員長	
行政機関	樋原 貞二 松本 和也	H25.3.31まで H25.4.1から	檜葉町社会福祉協議会事務局長
消防団	柴田 浩光	消防団長・特別警戒隊	
教育機関	玉澤 淳	中学校長	
教育機関	荒川 秀則	北小学校長	
教育機関	田中 芳教 齋藤 洋子	H25.3.31まで H25.4.1から	南小学校長
公共的団体	松本 栄樹	ふたば農業協同組合檜葉支店長	
公共的団体	渡邊 清	商工会会長	

区分	氏名	備考
公共的団体	山内 貴光	商工会青年部
公共的団体	猪狩 久市	観光協会会长
公共的団体	橋本 明美	中学校PTA代表
公共的団体	長谷川佳代	南小学校PTA代表
医療機関	土岐 高久	ときクリニック院長
民間企業	加藤 大成	除染推進組合(事務局)
民間企業	西形 憲司	(株)東邦銀行構築支店長
民間企業	高田 豊治	(株)日本フットボールヴィレッジ副社長
民間企業	佐藤 晴一	(有)サンフレッシュならは代表
住民	渡部 瞳美	平成24年成人式代表
住民	山内 美加	平成23年成人式実行委員
住民	柄久保 寿治	
住民	山内 千春	
住民	猪狩 廉彦	
住民	坂本 久美子	
住民	細山 道明	
住民	梶原 活司	
住民	金子 美智子	
オブザーバー	武藤 孝雄 芳賀 克男	H25.3.31まで H25.4.1から 復興庁 福島復興局いわき支所長
オブザーバー	長尾 憲宏	福島県相双地方振興局企画商工部副部長

(順不同)

楢葉町復興計画〈第二次〉策定経過

楢葉町復興推進委員会（第1回）

1. 基調講演「三宅島の長期避難と船島について」

（公社）減災・復興支援機構 専務理事 宮下加奈

2. 委嘱状交付 役員選出

（1）楢葉町の現状と復興に向けての取り組み

（2）第1期の検討内容と進め方について

（3）「原子力発電所の事故による避難地域の原子力被災者・自治体
に対する国の取組方針（グランドデザイン）について」

復興庁 参事官 太田秀也

平成24年9月30日

まちづくり会社「ならは復興会社（仮称）」PT会議（第1回）

平成24年11月24・25日

各課ヒアリング

平成24年11月30日

スマートコミュニティとコンパクトなまちづくりPT会議（第1回）

平成24年12月8日

放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）PT会議（第1回）

平成24年12月21日

第8回楢葉町復興対策本部会議

楢葉町復興推進委員会（第2回）

1. プロジェクトチームからの現状報告

2. 復興計画〈第二次〉等について

（1）「時期区分」について

（2）「土地利用イメージ」について

3. 生活再建のプロセスについて

平成25年1月17・18日

各課ヒアリング

平成25年1月25日

楢葉町議会全員協議会

楢葉町復興計画〈第二次〉中間案について

平成25年1月26日

放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）PT会議（第2回）

平成25年1月30日

スマートコミュニティとコンパクトなまちづくりPT会議（第2回）

平成25年1月31日

まちづくり会社「ならは復興会社（仮称）」PT会議（第2回）

平成25年2月27日

スマートコミュニティとコンパクトなまちづくりPT会議（第3回）

平成25年3月4日

まちづくり会社「ならは復興会社（仮称）」PT会議（第3回）

平成25年3月16日

放射線医療研究・予防医療福祉総合センター（仮称）PT会議（第3回）

平成25年3月28日

第9回楢葉町復興対策本部会議

楢葉町復興推進委員会（第3回）

平成25年3月30日

1. プロジェクトチーム等からの報告

2. 復興計画〈第二次〉（案）について

平成25年4月6日～17日

楢葉町復興計画〈第二次〉（案）パブリックコメント

平成25年4月25日

楢葉町議会全員協議会

楢葉町復興計画〈第二次〉素案について

楢葉町復興推進委員会（第4回）

平成25年5月11日

1. 楢葉町復興計画〈第二次〉（案）答申

2. 楢葉町現地調査

平成25年5月16日

第10回楢葉町復興対策本部会議

楢葉町議会

平成25年5月24日

楢葉町復興計画〈第二次〉議決





檜葉町 花・木・鳥



町の花:やまゆり



町の木:すぎ



町の鳥:うぐいす